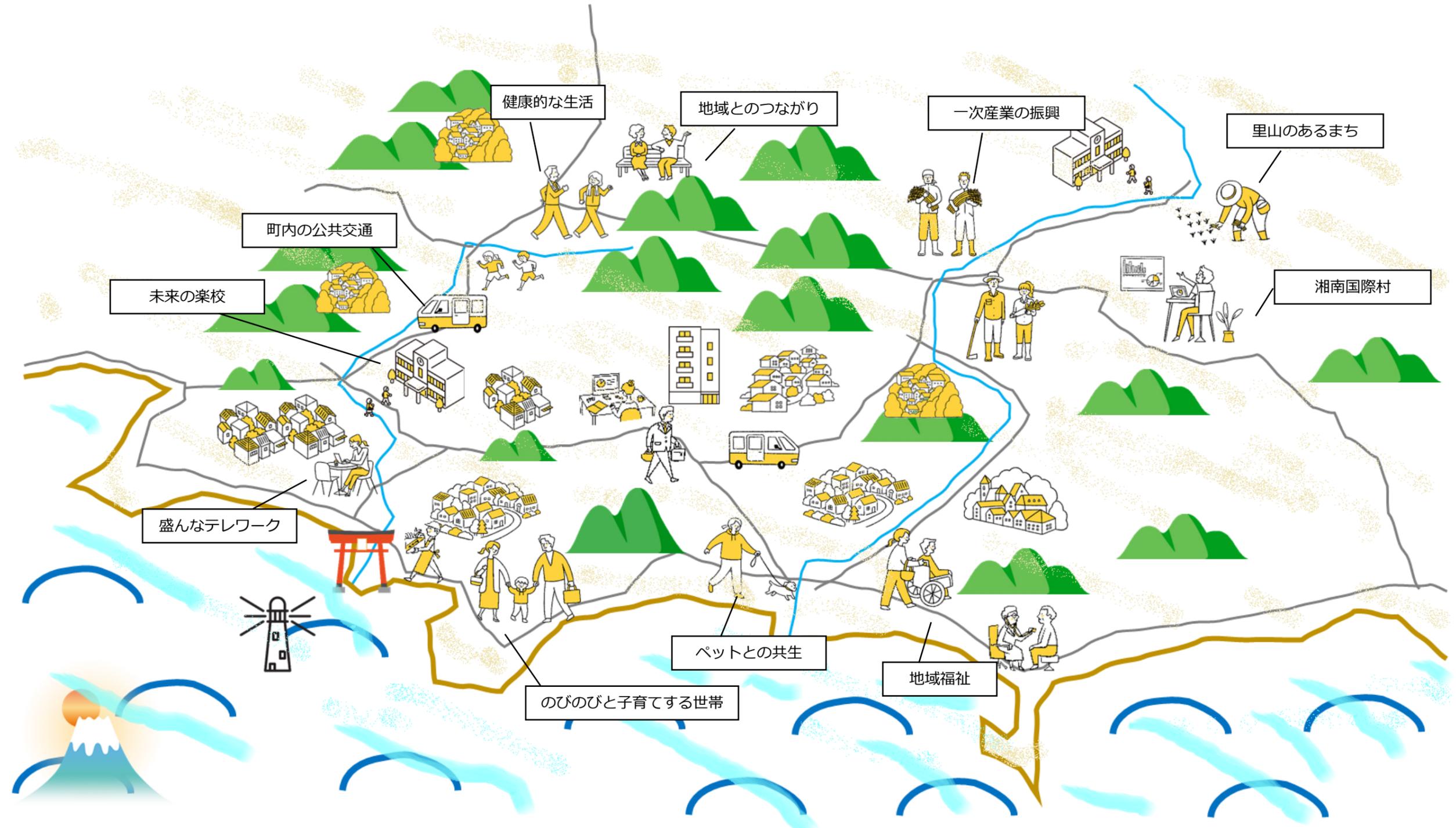


資料 2

未定稿

**基本構想骨子案 ver.2
(2025 – 2040)**

2040年に目指す町の姿（仮・イメージ図）



1. 計画の基本的事項

1 計画策定の趣旨

葉山町は、2015年3月に2024年度を目標年次とする「第四次葉山町総合計画（以下、「第四次計画」という。）」を策定しました。第四次計画の基本構想では、これまで築きあげてきたまちづくりを尊重し、継承しながら、「人を育てる葉山」、「暮らしを守る葉山」、「活力を創造する葉山」、「みんなで作る葉山」の4つの基本理念に基づいた新しいまちの将来像を、「美しい海とみどりに 笑顔あふれる ころろ温かな ふるさと 葉山」として掲げるとともに、まちづくりのための基本目標とその目標を実現するための施策の大綱を定め、着実に推進してきました。

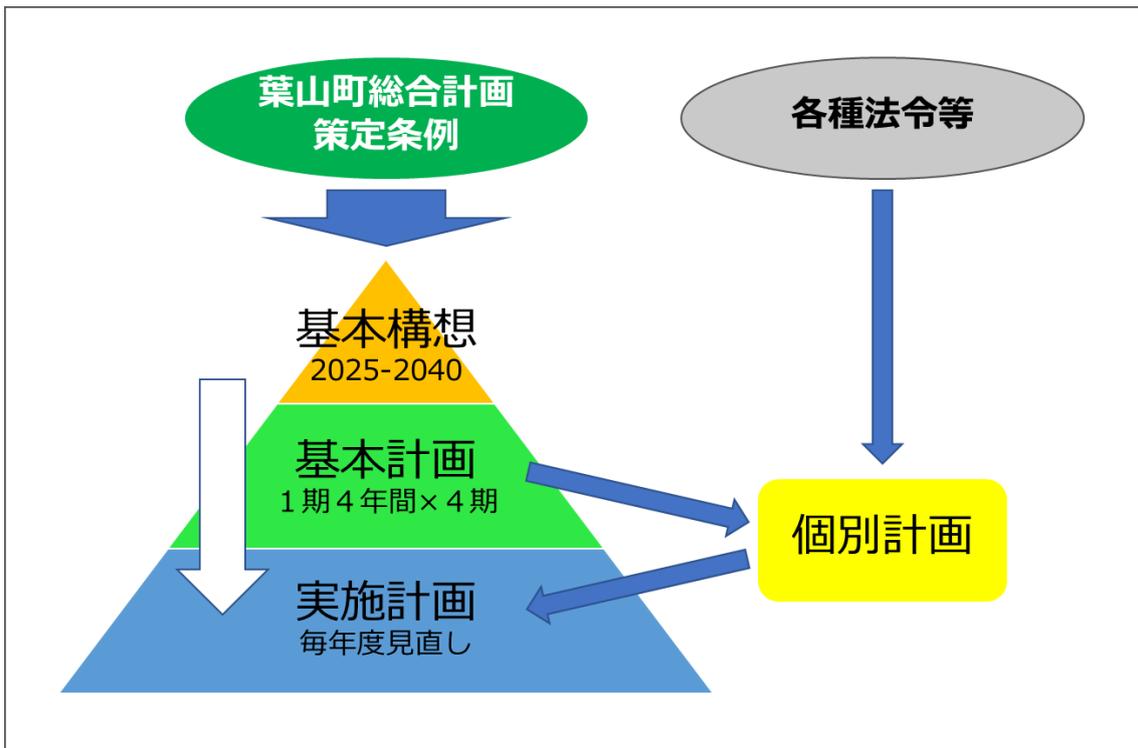
しかし、第四次計画期間中には、人口減少社会、高齢化社会の進展などの社会構造の変化や、激甚化する自然災害の頻発、世界中に大きな影響を及ぼした新型コロナウイルス感染症の感染拡大や国際情勢の不安定化など、予測しえなかった事柄が次々と起こりました。その一方で、ICT技術の飛躍的な発展によって、Society5.0の実現に向けたデジタル化の急速な拡がりが進んでいます。

こういった先の見えない時代にあっては、不測の事態に柔軟に対応しなくてはならない一方で、町の将来を見据え、長期的なビジョンを町民と共有し、町の目指す姿へ向けて着実に施策を進めていくことが重要です。こうしたことから、目指す町の姿を町民とともに実現していくために、第五次葉山町総合計画（以下「本計画」という。）を策定します。

2 計画の構成・期間

本計画は葉山町総合計画策定条例（平成 25 年 10 月 8 日条例第 15 号）に基づき策定されるもので、基本構想・基本計画・実施計画の 3 層構想とします。基本構想の計画期間は 2025 年度～2040 年度までの 16 年間、基本計画は 1 期 4 年間、実施計画は年度ごとの予算事業と連動し、毎年見直すこととします。

また、各行政分野の個別計画とも連動し、町の目指す姿を実現していくために、本計画の構成は次のとおりとします。

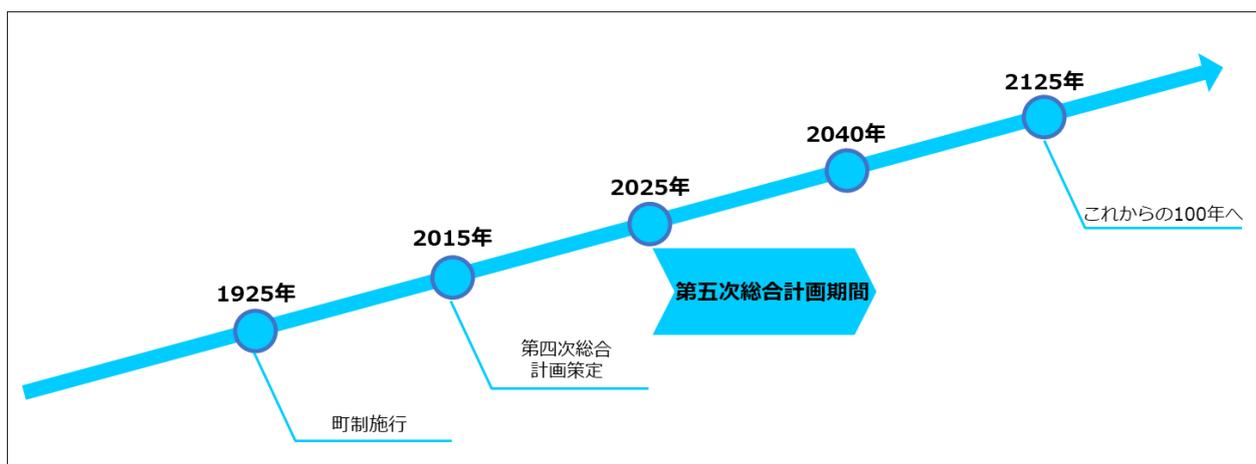


西暦（年度）	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037	2038	2039	2040												
和暦（年度）	令和 7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22												
基本構想	16年間																											
基本計画	4年間（1期）				見直し作業				4年間（2期）				見直し作業				4年間（3期）				見直し作業				4年間（4期）			
	毎年度見直し																											
	実施計画	毎年度見直し																										

3 計画の位置づけ

本計画は町が策定する行政計画のなかで最上位の計画で、町の将来像を示したまちづくりの指針となるもので、町が目指すまちづくりの大きな方向やそれを実現するための施策などを定めています。

また、本町は令和7年1月に町制施行100周年を迎えますが、本計画はこれまでの100年の歴史を踏まえ、そして、これからの100年の未来を見据えながら、きたる2040年に向けて町の目指す姿を描いた計画です。



2. 葉山町の概要

人口

総人口

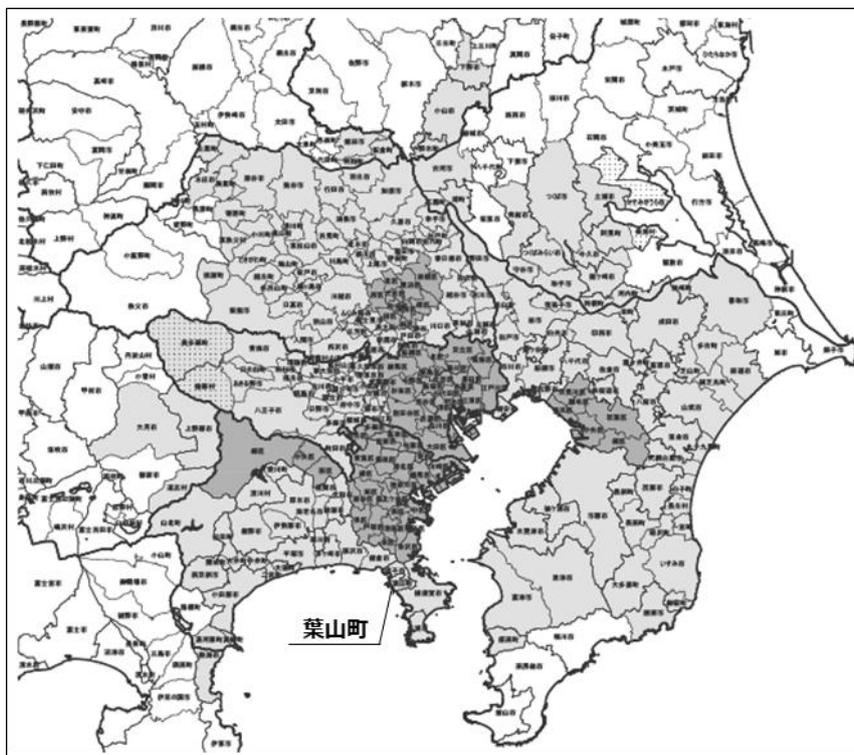
住民基本台帳による令和5年10月1日現在の人口は32,339人（高齢化率31.4%）です。平成24年11月にはピークとなる33,890人となりましたが、その後は微減傾向が続いています。

本町の人口増減の特徴としては、転入数が転出数を上回る社会増が続いているものの、死亡数が出生数を上回る自然減が続いており、社会増より自然減が多いことから、微減傾向が続いています。

関東大都市圏内としての葉山町

本町は関東大都市圏に位置します。令和2（2020）年国勢調査によると、本町の規模は関東大都市圏内の総人口のうち0.08%を占めており、215自治体中162番目となる人口規模です。

本町は東京から50キロ圏内に位置しており、都心へ通勤・通学ができる一方で、海や山などの豊かな自然に恵まれています。令和2（2020）年国勢調査によると、本町の昼間人口の割合は夜間人口の77.8%ですが、これは県内で4番目に低い割合となっており、他自治体に比べて多くの方が昼間は町外に出ているということを表しています。



総務省統計局 HP 関東大都市圏図（令和2年）より

自然環境

葉山の「海」

三浦半島西北部に位置する葉山海岸は、森戸海岸、芝崎、一色海岸、小磯、大浜海岸、長者ヶ崎海岸という砂浜と岩礁が交互に連なっている南北4キロメートルにおよぶ美しい海岸線です。平成8（1996）年には、「日本の渚百選」に選ばれています。

葉山の「山・川」

本町の南東には大楠山から連なる宝金山や峰山の丘陵、北東に大山、二子山等の丘陵、町の中央に大峰山と3つの山塊があり、これらの山々を水源とする下山川、森戸川が西へ流れ相模湾に注いでいます。

また、本町の林野率は51%で、全県平均39%を上回っており、風光明媚な美しい山と山林に覆われています。

経済・産業

農業・漁業

総農家数は減少傾向にあり、令和2（2020）年農林業センサスによると102戸でしたが、そのほとんどが自給的農家です。耕地面積32haのうち畑が29haを占めます。

漁業経営体数は、農家同様に減少傾向にあり、平成30（2018）年漁業センサスによると、34経営体でした。

商工業・観光

町内には大規模なショッピングモールなどはなく、スーパー・ドラッグストアを除きその多くが個人経営の商店が中心です。本町へは、夏の海水浴シーズンを中心に一年を通じて多くの観光客が訪れますが、そのほとんどが日帰り観光客となっています。

湘南国際村

平成6（1994）年に本町と横須賀市にまたがるかたちで開村した湘南国際村は、総合研究大学院大学、(公財)地球環境戦略研究機関の2つの研究施設と、多くの研修施設が立地し、国際的な学術研究、人材育成、技術交流、文化交流等の事業が展開されるなど、国内外を問わず多くの方に利用されています。

都市機能

医療

本町は規模の小さい自治体のため、町内の医療機関で完結できないこともあります。本町は神奈川県医療計画において「横須賀・三浦二次医療圏」に含まれており、圏内での連携協力体制を構築しています。

消防・救急

複雑化する消防・救急要請に迅速かつ的確に対応すべく、平成 27 年より横須賀市と共同で「横須賀市・葉山町消防指令センター」を設置し、119 番通報の受付、消防車・救急車の出場指令を行っています。

交通・道路

本町には鉄道駅がなく、公共交通はバス・タクシーに限られています。路線バス網は主に JR 逗子駅及び京浜急行逗子・葉山駅への乗り入れを中心とする京浜急行バス(株)の路線バスによって形成されています。

主要幹線道路は、南北に国道 134 号線、沿岸部は県道 207 号線、東西には県道 27 号線などいくつかの国・県道が走り、町道が網の目状に張り巡らされています。

上下水道

本町の上水道は神奈川県営水道の給水区域に含まれています。

下水道は、市街化区域で整備を進めており、令和 7（2025 年）に概成することを目指しています。市街化調整区域は、合併処理浄化槽の普及に務めており、下水道と合併処理浄化槽の処理人口を合わせた汚水処理人口普及率は令和 4 年度時点で 87.1%となっています。

歴史・文化

歴史

明治 20 年代からは名士の別荘が続々と建てられ、明治 27（1894）年には葉山御用邸が竣工し、名実ともに別荘地葉山となりました。また、日本ヨット発祥の地としても知られています。

文化

名誉町民である堀口大學をはじめ、数々の文化人も葉山を愛してきました。また、町民主導型のアートフェスティバルである葉山芸術祭も 30 年以上続くなど、豊かな文化が育まれています。

○ データで見る葉山町

国や県の統計データ等から、本町の特徴を客観的に表すと考えられる指標を作成しました。

指標名	データ	出典
1 住宅あたり延べ床面積	112.91 m ² (県内で1番目に広い)	平成30年度住宅土地統計調査
納税義務者1人あたり総所得金額	4,447 千円 (県内で2番目に高い)	令和4年度市町村税課税状況等の調
人口1万人あたり100歳以上人口	15.9 人 (県内で2番目に多い)	神奈川県年齢別人口統計調査結果報告 (令和5年1月1日現在)
人口1千人あたり刑法犯認知件数	2.29 件 (県内で3番目に少ない)	令和4年刑法犯罪名別市区町村別認知件数
人口100人あたり犬の登録数	8.04 頭 (県内で1番目に多い)	神奈川県 HP ほか
一般廃棄物リサイクル率	50.4% (県内で2番目に高い)	令和3年度一般廃棄物処理実態調査
人口1人あたりCO ₂ 排出量	3.15 t (県内で2番目に少ない)	自治体排出量カルテ令和2年度実績

※上記のデータは国・県の統計データ等から算出していますが、民間企業が実施している「住み続けたい街ランキング(全国版)」で2年連続No.1、「社長の住む街ランキング(町村ベース)」で県内で1番目に多い、という結果が出ているなど、民間のいくつかのランキングでも本町がランクインしています。

3. 町が未来へ繋いでいく想い

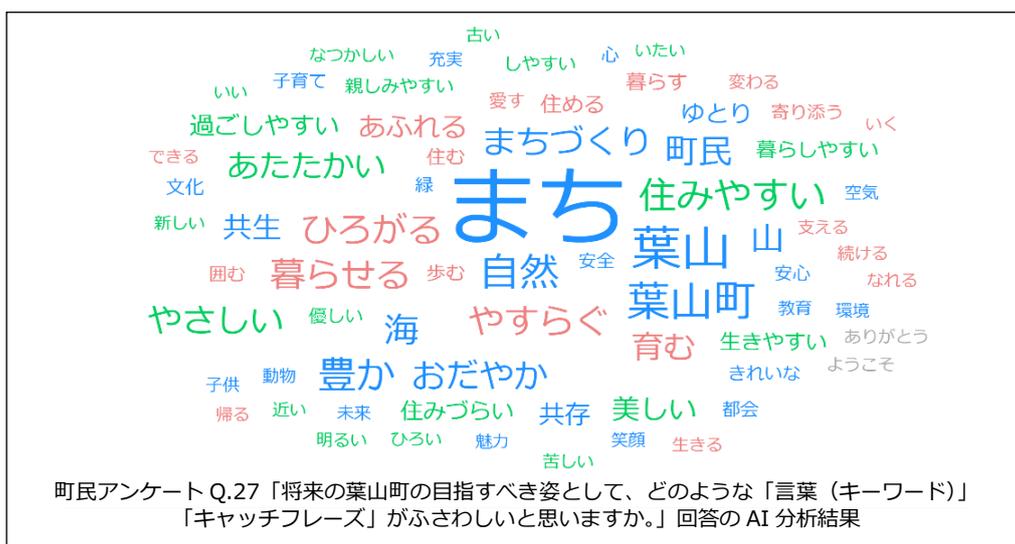
「美しい海とみどりに 笑顔あふれる
心温かな ふるさと 葉山」

葉山町は三浦半島西北部に位置し、北は逗子市に、南及び東は横須賀市に接し、相模湾沿岸の西部や逗子市方面の北部を中心に市街地が広がっており、東部は山林が多くを占めています。

本町は青い海と緑豊かな丘陵に囲まれた首都圏の温暖な地として親しまれ、明治中期に御用邸が建設されてからは、御用邸の町あるいは保養地として広く知られ発展してきました。

本町は、明治 22 (1889) 年の町村制実施によって、木古庭、上山口、下山口、一色、堀内、長柄の 6 か村が合併して葉山村となり、大正 14 (1925) 年 1 月 1 日に町制を施行しました。そして、令和 7 (2025) 年 1 月 1 日に町制施行 100 周年を迎えます。別荘地として数々の名士や芸術家・文化人などに愛されてきた歴史。100 年を経た今もなお、多種多様な人々が暮らし、この町の自然や風土、街並みを愛する想い・文化がこの町には根付いています。

本計画を策定するにあたっては、町民の皆様へアンケート調査を実施しました。この町民アンケート調査のなかで「将来の葉山町に向けた想いやキャッチフレーズ」を聞いたところ、町民の皆様にご共通する町の将来への想いを見取ることができました。



その想いは第四次計画の将来像と共通していたことから、第四次計画の将来像である「美しい海とみどりに 笑顔あふれる 心温かな ふるさと 葉山」を継承し、町がこれからの 100 年へ、未来へと想いを繋いでいきます。

自分らしく、人と繋がれるまち

子育てしたくなるまち

豊かな美しい自然の中で、のびのびと子どもを育てられるまち。
葉山らしさを活かした小中一貫教育が受けられるまち。
地域と関わり合い、子どもの居場所だけでなく、大人の居場所も作って
いけるまち。
子どもだけでなく、親も学び、やりたいことをできるまち。
そんな「子育てしたくなる」と思えるまちを目指していきます。

住み続けたいくなるまち

子どもから高齢者まで、何歳になっても社会・地域と関わり合い、繋がる
ことができるまち。
地域と共に防災・減災へ対応し、これからの100年も安心・安全に住み
続けられるまち。
ゆとりのある街並みの中で、穏やかでかつ自由な気風を誰もが感じられ
るまち。
そんな「住み続けたいくなる」と思えるまちを目指していきます。

好きと言いたくなるまち

御用邸や日本ヨット発祥の地などのこれまでの歴史を紡いできたまち。
山と海・川が連携した産業が活性化し、地産地消が根付いているまち。
町民と共に未来へ自然を守り、受け継いでいく環境貢献のまち。
町に関わる人々が織りなす多様な文化・芸術を愛するまち。
そんな「葉山町が好き」と言いたくなる、そして、町外の人には「いつ
かは葉山へ」と思われるまちを目指していきます。

5. 2040 年を見据えた考え方

1 ウェルビーイングの要素を取り入れたまちづくり

葉山町は、第二次世界大戦後、日本の経済成長とともに人口が増え、首都圏のベッドタウンとして発展してきました。それは、町に様々な恩恵をもたらした一方で、大量生産・大量消費といった物質的な豊かさでの発展だったとも言えます。

しかし、これから迎える人口減少社会・超高齢化社会においては、今までの物質的な豊かさを追い求めていくことは難しく、それに加えて、脱炭素に向けての取組みなど地球環境への対応も求められる時代になっていきます。

そういった背景を受けて、近年、物質的な豊かさよりも精神的な豊かさを追求する動きが、世界や日本において広がっています。これまでも本町はゆとりのある居住空間と美しい海や海岸線・浜辺、丘陵や緑地、川辺の空間などの豊かな自然環境を大切に守ってきました。これは、本町が既に精神的な豊かさを大切にしてきたという証でもあります。

精神的な豊かさとはウェルビーイングとも言われます。ウェルビーイングは「肉体的・精神的・社会的に満たされた状態」、「持続性のある幸せ」などと言われますが、ウェルビーイングを構成する要素として、「自己実現」「前向き」「繋がり」「自立」などがあるとされています。

このような要素は、一人ひとりの人生だけではなく、これからのまちづくり・行政にとっても目標とすべき重要な要素と考えます。それは、縮小していく社会であっても、全ての人々が前向きに期待の持てる町にしていくことが、これからの行政が求められる役割の1つだと考えるからです。



これからの社会に向けて町が担う役割の1つは、「町民がそれぞれの多様な幸せを目指すことができる土壌づくり」です。それは、葉山に関わるわたしたちにとって、「自分らしくいられるまち」と「人と人が繋がるまち」です。

「自分らしくいられるまち」とは、一人ひとりが尊重され、社会から孤立することなく、自分らしくのびのびと暮らすことができるまちのことです。

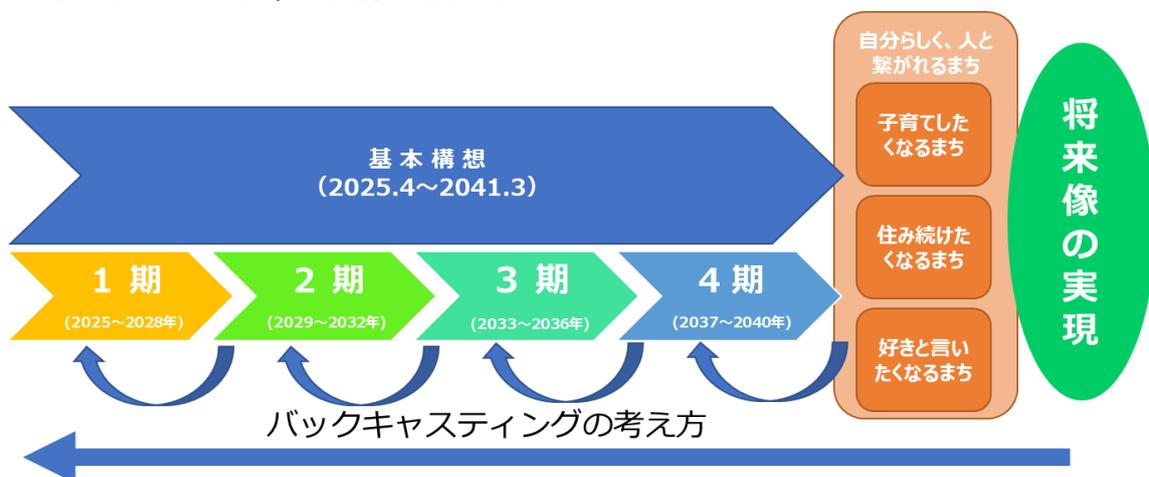
「人と人が繋がるまち」とは、自立しながらも顔の見える関係性を築いていくことができるまちです。それはただ単に人が集まる新たなコミュニティ施設を作るということだけではなく、精神的・社会的な繋がりを感じられる機会のことです。

葉山町には年齢・性別・国籍などを問わず多種多様な人々が暮らしています。人々の幸せはそれぞれのカたちであるべきですが、様々な花が咲き誇る土のように、その幸せを実現できるための下地を作っていきたい。そういった「自分らしく、人と繋がれるまち」が、新たな地域コミュニティのかたちだと思います。

新たな地域コミュニティが花咲く町をつくるために、葉山町は「子育てしたくなるまち」「住み続けたいなるまち」「好きと言いたくなるまち」という3つの目指すまちの姿を掲げ、2040年に向けて進んでいきます。

2 バックカスティングを意識した政策・目標の立案

バックカスティングとは、未来起点型手法と言われ、未来のあるべき姿から逆算するかたちで、その実現のために現在取り組むべき事柄を検討する手法のことです。先の見えない時代にあっては、2040年の未来を想像することは非常に難しいことではありますが、「自分らしく、人と繋がれるまち」となるために、「子育てしたくなるまち」「住み続けたいなるまち」「好きと言いたくなるまち」という3つの目指すまちの姿を意識し、それを実現できるための政策・目標を検討します。



～2040年葉山みらい日記～

葉山みらい日記は、2040年に目指す3つのまちの姿を、2040年の未来に生きる様々な年代・性別の町民目線で描いたものです。実際にこういった未来となっているかはわかりませんが、目指すまちの姿の実現に向けて、町民とともに取り組んでいければと考えています。

子育てしたくなるまち

13歳中学生の日記

学校で「はやま科」の授業があった。「はやま科」は小学校から続いている授業で、今日は地域のNPO団体から環境貢献の話聞いた。世界から葉山の話まで色々なことを聞いたけど、私に何ができるのだろう。自分ができることを一つずつしていきたいな。

そういえば、今朝おじいちゃんが学校に行くって言っていた。近所の人と貯筋体操をしに行くんだって。学校の周りには色々な人が集まっていて、学校に行くのが私は楽しい。

38歳女性の日記

今日は久しぶりに休みが取れたから5歳の息子と一色海岸に行った。磯で見つけた生物を私に教えてくれた。保育園ではこの間、南郷上ノ山公園に行ったみたい。葉山は海も山も近く、町にいただけで自然を感じられる。息子ものびのびと成長していると思う。

今思うと、息子を保育園に入れることができ、本当に良かった。自分のキャリアも実現していきたいし、息子も葉山の中で育ってくれている。明日からも夫と一緒に仕事も育児もがんばろうね。

42歳男性の日記

子どもが生まれて、色々な出会いがあった。妻も自分も働いている我が家にとっては、地域の人が見てくれる学童はとても助かっている。

明日も学童で出会った保護者の方と、子どもと一緒にワークショップへ行く。ワークショップは学校でやるのだそう。葉山の学校は小中一貫校というだけでなく、地域の集会所にもなっていて、行く度に新たな出会いがある。大人になってもワクワクできるのは少し気恥ずかしくもあるが、地域の人と顔なじみになれるのは嬉しい。

住み続けたくなるまち

82 歳女性の日記

今日はデイサービスに行った。デイサービスへは近所の人を送ってくれた。この年齢になって近所の人と繋がりがあるのは、凄く安心するわ。免許を返納したから外出しづらくなっていたけど、こうやって声を掛けてくれるのは嬉しいし、外に出てみようという気になる。明日は近所の人と下山口の健康の散歩道を歩くのが楽しみ。

47 歳男性の日記

子どもが風邪を引いてしまい、病院へ。子どもの医療費が無料なのは本当に助かる。この間、近所の人に聞いた話によると、葉山には総合病院はないけれど、いざという時はしっかりと連携しているようだ。

それでも、まずは病気にならないことが一番大事。そういえば、広報葉山に未病予防の講座が載っていた。Web 講座は気軽に参加できるから助かるな。

54 歳女性の日記

今日は堀内防災広場で防災訓練があった。役場の職員の指導してもらって、有事に備えて様々な訓練を行ったんだけど、驚いたことに、参加者の顔ぶれが様々だったわ。高校生のような若者、30代ぐらいの夫婦、そして高齢者まで。もし避難所に行くことになっても、顔を知っている人たちがいれば、きっと安心するよね。

70 歳男性の日記

仕事を退職し葉山で過ごす時間が多くなった。葉山で過ごしていると、ゆったりとした空気が流れていると感じる。確かに周りを見渡せば、家々の間隔もあり、ゆとりのある街並みだ。海や山だけでなく、街並みの中に緑もあると言うのは過ごしていて気持ちがいい。

細い道も多いが、車が入りづらいからか、子どもたちが道で遊び、犬の散歩をしている人も多く見かける。この街並みと人の営みが葉山の空気感をもたらしめているのかもしれない。

好きと言いたくなるまち

8歳小学生の日記

家族で行った朝市でパパがワカメを買いました。パパが「このワカメは葉山のワカメなんだ」って言ってました。朝市のあとはハマステーションへ行って、ママが野さいを買いました。そういえば、この間の学校で「地さん地消」って習ったけど、このワカメや野さいを食べることがそのことな気がします。

葉山で買う食べものはどれもおいしくて好きだし、きゅう食も「地さん地消」のこんだてが多いって知ってびっくりしました。

34歳男性の日記

結婚を機に葉山へ帰ってきて、2か月が経った。久しぶりの葉山は昔と変わらず、環境への意識が高い人が多いと感じる。18歳で葉山を出て都会に住んでみて驚いたのはごみの分別の簡単さだった。葉山に比べて楽に感じたけど、環境に良いとは思えず、なんだかむずがゆい気持ちだった。

葉山では今もビーチクリーンをしている人が多いし、はやまエシカルアクションもまだ続いている。エシカルアクションは色々な地域へ広がっているらしい。葉山では当たり前の環境への意識も、ちょっと誇らしい気持ちになる。いつか子どもが生まれるときのためにも、これからも環境へ貢献していきたい。

来月には大学の友人たちが葉山に遊びに来る。葉山は良いとこだぞって自慢しようか。

23歳女性の日記

今日、初めて葉山へ行った。海の近くのまちで、森戸海岸からは富士山が見えてきれいだったなあ。海はヨットが多く見えたけど、日本ヨット発祥の地だって友達から聞いて納得した。友達は葉山に何度も行ったことがあるみたいで、御用邸とか美味しいご飯屋さんとか色々教えてもらって、お洒落なお店が多くて、私もすっかり葉山が好きになっちゃった。

そういえば、来月には葉山芸術祭っていうのがあるみたい。アートも好きだし、友達誘って行ってみようかな。

6. 踏まえるべき社会情勢

本計画の策定にあたっては、次の社会情勢を踏まえつつ、先の見えない時代における不測の変化にも対応できるよう、柔軟な計画づくりを行います。

1. 人口減少社会への突入

我が国は平成 23 (2011) 年に人口減少社会「元年」を迎えました。それは本町においても例外ではなく、平成 22 (2010) 年に人口のピークを迎え、平成 23 (2011) 年から人口の微減傾向が続いています。

新型コロナウイルス感染症の影響によって、テレワーク等の新しい生活様式の定着に伴い都市部から地方への移住意識が高まったことで、本町も令和 2 (2020) 年には人口増へ転じましたが、その後は再度減少し始めています。このことから、本町も明確に人口減少社会へ突入したと言えます。

2. 先の見えない時代の到来

少子高齢化の加速、人口減少社会の到来などの社会構造の変化とともに、気候危機による自然災害の頻発、新型コロナウイルス感染症の世界規模での拡大、ロシアによるウクライナへの侵攻、DX (デジタル・トランスフォーメーション) の進展、AI の急速な普及など、予測を超える速さで社会や経済が変動する VUCA (ブーカ) の時代が到来しています。

3. ポストコロナ社会に向けて

令和 2 (2020) 年に世界中で感染が拡大した新型コロナウイルス感染症は、国内においても緊急事態宣言の発令等により全国一斉休校、外出の自粛、店舗の営業自粛など、生活環境や社会経済に大きな影響を及ぼしました。

令和 5 (2023) 年 5 月に 5 類感染症へ移行したことでコロナ禍は終わりを迎えたが、ポストコロナ社会に向けて、コロナ禍以前の社会に戻るのではなく、感染症の影響によって定着した「新しい生活様式」の価値観等に対応し、そして、今後新たな感染症が発生した場合にも適応することが重要です。

4. 地球温暖化の深刻化

地球温暖化の深刻化によって、世界中で様々な異常気象が観測され、猛暑や干ばつ、台風の巨大化等による甚大な被害が発生し、もはや気候危機であると言われていています。

本町はこれまでも町の美しい自然を未来へ継承するための取組みを進めてきましたが、気候危機が本町にとっても著しい脅威となっていることを認識し、全町一丸となって気候非常事態に取り組んでいくため、令和 3 (2021) 年 3 月に「はやま気候非常事態宣言」を表明しました。

5. 災害への意識の高まり

近年、我が国では災害が激甚化・頻発化し、各地で甚大な被害が発生しています。加えて、近い将来における首都直下地震などの大規模な地震発生リスクが指摘されており、災害への意識が高まっています。

本町においても、令和元(2019)年東日本台風では大規模停電が発生するなどの被害を受けました。そこで令和 4 (2022) 年に神奈川県との合同総合防災訓練「ビッグレスキューかながわ」を実施するなど、来る災害に向けて取組みを進めています。

6. DX・デジタル化の急速な拡がり

近年、デジタル技術の進展や新型コロナウイルス感染症の影響等を背景に、IoT、AI、ロボットなど、社会のデジタル化が急速に浸透してきています。

国は令和 3 (2021) 年に「デジタル社会形成基本法」を制定するとともに、令和 4 (2022) 年には「デジタル田園都市国家構想基本方針」を策定し、デジタル社会の力を活用した社会課題の解決を目指しています。

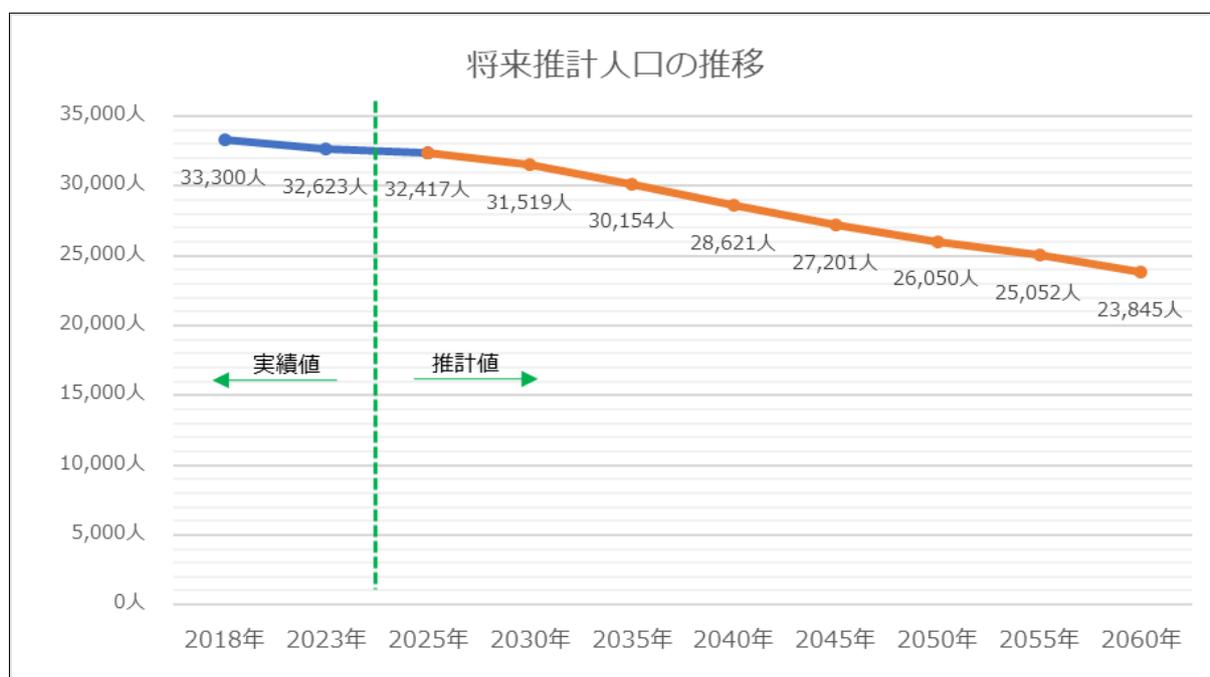
町では、令和 5 (2023) 年 10 月に「葉山町 DX 推進基本方針」を策定し、DX 化に向けて取組みを推進しています。

7. 将来人口

1 将来人口

2018（平成30）年と2023（令和5）年を基礎としたコーホート法による住民基本台帳人口推計によると、今後も人口減少が続き、本町の人口は2040年には29,000人を、2060年には24,000人を切るという推計がされています。

本計画における将来の人口に対する基本的な考え方については、日本全体で人口が減少していく中にあることは、本町においても人口が減少していくことは受け入れつつも、子育て世帯の転入が多いという本町の特徴を維持すべく、教育・環境など本町の長所を伸ばし、引き続き、子育ての場として選んでもらえるような町を目指します。



2 年齢区分毎人口推計

年齢区分別（年少人口：0-14歳、生産年齢人口：15-64歳、老年人口：65-74歳、後期高齢者人口：75歳）の人口推計を見ると、年少人口と生産年齢人口は減少が続く中、老年人口と後期高齢者人口は増加を続けます。2040年問題と言われる2040年には老年人口がピークを迎え、高齢化率は40.8%、2055年には47.0%と非常に高くなっていきます。

2023年比で見ると、2040年の人口は総数で△12.3%減少し、生産年齢人口は△20.2%、年少人口は△44.2%減少します。総人口の減少スピード

を上回る早さで、生産年齢人口・年少人口が減少していきます。その一方で、老年人口は+36.7%、後期高齢者人口は増減がほぼないことから、超高齢化社会へ進展していくことが見て取れます。

人口ピラミッドでの推計人口の推移を見ると、2040年に老年人口が多くなる傾向が顕著に見え、2060年には全世代が縮小し、特に年少人口が減少していることが良くわかります。

